

人生ハンド仏句

第34号

H. 17. 1. 1
(毎月1日発行)



住職 谷川寛俊

新年明けましておめでと〜御座います。昨年一年を振り返ってみますと、喜怒哀楽の織り交じった一年でした。

喜びと楽しみの代表は、八月に行われましたアテネオリンピックでの日本人選手のメダルラッシュ。アメリカ大リーグ「イチロー」選手の世界記録樹立。そして怒り哀しみは、毎日のように起こっている弱者に対する残酷な事件と、台風や地震等の自然災害ではないでしょうか。仏様の教えでは、人間界の自然界に起こる異変は別々なものではなく、本来一つのものであると示されています。

つまり、今この世に起きている異変

は、私達人間の心が三毒（貪り・怒り・痴か）に満ち溢れゆがんでいるから、「それではいけないヨ」と自然界が警告を発しているのではないのでしょうか。「妙法」という正しい教えで、早くこころのゆがみを直して信を強くして今年一年を過ごしたいものです。

さて副住職、寛敬日俊上人は、昨年十一月一日より今年二月十日までの寒耆百日間、千葉県市川市にある、大本山法華経寺内にあります日蓮宗大荒行堂に再行、二回目の修行僧として昼夜常精進致しております。

昨年十二月十五日年末、何かとご多忙の中三十一名の人達で新幹線を乗り継ぎ日帰り面会と特別祈禱を受けに行つて参りました。

帰りは「フーテンの寅さん」で有名な柴又帝釈天（題経寺）を参詣し、

開帳をいただき、本堂の周りには見事な彫刻で出来上がったお堂も拝見し夜九時半すぎ皆無事に感動の内に帰つて来ました。

お蔭様で仏祖三宝、鬼子母天尊神様並びに諸天善神様のご守護と檀信徒の皆様方の蔭のお守りを頂き、元気に修行に励んで居りましたことをご報告申し上げます。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。残り四十数日、先師のお言葉に「九十九日をもって中半とせよ」と言う格言がありますが、残りの修行に励んでもらいたいと願っています。

世界の三大荒行と言われているこの大荒行は多勢の修行僧（今年は一九五名という史上最高の入行僧）が共に修行するというのは世界中の宗教界をみても我が日蓮宗だけではありません。

壱百日間、自由を奪われ、命を鬼子母尊神様にお預けし、朝二時半起床で、午前三時、六時、九時、十二時、

午後三時、六時、夜十一時と一日七回の法水をかぶり、朝、夕二回のおかゆをすすり、睡魔と飢えと寒さに耐え、心身を清めそして檀信徒の皆様方の除災得幸を祈り自らを磨く為の誠に厳しい修行であります。

私もすでに二十二年程前に修行を終え、今日まで精進させていたのですが、毎年この時期を迎えるといつ昨日の様に思い出されます。

来る二月十二日（土）午後一時半より大荒行成満報告式を奉行いたしますので、どうぞ一人でも多くお誘い合わせ、苦修錬行壱百日間の荒行を終えた行僧さんのお加持を是非お受け下さいます様、ご案内申し上げます。

尚、例年の「団子まき」も合わせて行いますので、どうぞお参り下さいませ。

